

180
才
上

平家
入
504E
性生要集
上

惠心僧都御像



僧都乃誦焉

極樂を結ぶおのゝこころをわづらひ

わづらひのこころをわづらひ

おのゝこころの道とていふは

わづらひのこころをわづらひ

さやうにわづらひのこころをわづらひ

わづらひのこころをわづらひ

序

夫極楽浄土小往生とてばて成佛す

修りの安んずるを教ふるは法は濁世末代の

老のあふ弊に目をしての戒え定むるを極

ぞ。邦有難教あるは僧俗男女老も残も

知らずも思わぬも信る心と極て此及ぶの

只教養の教法を純文唐半理の業因を極

又多く利根上智ありて要すめあま人の
未だ至難と云ふ人我れおぼるるもおはさか
き者ゆめづる元理と悟り難ととげたりん
は故に念佛の二門おぼひより安心定して佛
経論の中一の行要の文と集書つゝ縁起して
常お是とひききして修すおぼりあくはるあ
くましく十門を巻と二ふ分る。一は六厭離

嫌去二は六欣求淨去三は六極樂の淨
穢は六の正修念佛六は六の念の方便六
は六の別修念仏七は六の念佛の利益八は六
念佛の修後九は六の性生の徳業十は六の回答
料簡也。是と座の右ふ垂てりすれず。さう
せん。後とぞしつる

天台耆揚教院沙門源伝撰

往生要集卷之三

往生要集惣目錄

上之卷

○厭離土之事

○平等活地獄之事

○黑繩地獄之事

○衆合地獄之事

○叫喚地獄之事

○大叫喚地獄之事

○焦熱地獄之事

○大焦熱地獄之事

○聖衆來迎樂之事

下之卷

○六道之觀相及結事

○天道之事

○人道之事

○修羅道之事

○畜生道之事

○餓鬼道之事

中之卷

○阿鼻地獄之事

- 蓮花初開樂之事
- 身相神通樂之事
- 五妙境眾樂之事
- 快樂無退樂之事
- 引接結緣樂之事
- 聖眾俱會樂之事
- 見佛聞法樂之事
- 隨公供佛樂之事
- 增進佛道樂之事

惣目錄

往生要集卷之上

目錄

- 第一 厭離地獄之事
- 第二 等活地獄之事
- 第三 黑繩地獄之事
- 第四 衆合地獄之事
- 第五 叫喚地獄之事
- 第六 大叫喚地獄之事



闇魔王聽前之図

名生要集卷之...



等活地獄

の中へ付まゝして粒と食へり音見とあき太鼓とつら歌うを
とめてるはどのと殺したる若くは地獄へ落ちる七つは極苦不
よ候き岸の元へつてあふ思疾の火不焼をほる音わの聲
めて殺生したる若くは地獄へ落ちるなり

こと西法を修むものごとく九つは聲の中へすゑふまゝとくふまゝ

第三 黒繩地獄と半

○このふ思疾地獄といふは善治地獄に下なるは黒繩地獄と云ふ
一は獄卒飛人といつて換後の地獄へおろせ換後の鐘をひて堅
候不雲らんとて換後の斧といつて雲木の鐘をひて切裂或は
繩をひきまゝ或は刀でひて服をとり出し百千腰切といひ

こふわじとく又或は殺せぬく換後の鐘をひてほく換え其中へ
飛人と進入する悪風は吹て換後の鐘をひたまつり有間と成
骨ととら又右の骨ととらも思疾の山を山のうへお黒くこの懼
とまゝとらまゝなるもの鐘をひてお方の山へ張候くもこの
下お大釜といつてすゑすゑあふぐらしく又又川で湯玉たくはとどる
飛人よ思疾の山と負せ鐘の上をわらじむ形と云ふ病と云ふや
かの大釜の中へお煮て碑おらう本換候く骨身もなれま
けならは地獄のほしむは善治地獄なるのふ十六別所の地獄
若くは十と云ふ倍なりくらうて獄卒飛人の河責
あき守一の悪報をこのほどを敷とつらうそまゝ人と修り周

黒備地獄



徳生堂會社

王の若ふとてつゝある故りと地獄ふやれ我と悪業不食等々其
 子兄弟親類眷属もすくあるなりけと云へり後の所の地獄と云
 其地獄の若より若とすと入結つ次第なくふかきうらる半は
 地獄小形とてて志れし人間の二百歳と切利天の一日一夜とて
 そ命一千歳なり又切利天の命とこの地獄の一日一夜とて命
 一と兼之殺生偷盗の若し地獄ふ落る也又又雨の地獄と云
 等喚多昔雨とあつて飛人といひく高き半一重を由旬のき
 一の上ふらげ雲を雲火の黒き繩をほの縛りはあれたる
 後ふ岸の下は皆地獄とて利刀草むのどくふ立る如つて足
 以黒殺の火の牙ある物とれを喰ふ一牙を食ふくふとあはら

びとらげを吼喚もなするあつて昔法と経巻の海ふより、
 一切まこと那ふ一切と云りて岸の方とをげて自ら殺したるとも
 け地獄ふ落るると又又雨の黒き繩とあつて獄卒とも人ともいふ
 てさふのれ杖と云う上もあつて夜昼はともまらぬ或は火の黒殺
 の刀と云ふ也或は黒殺の火の弓といふもあつてはるをじりうり半は
 追つてとてく切さるく小射る昔物といふもあつて人ともいふ
 他りて食とらふいし若し地獄ふあつてね

舟に鳥合地獄と申

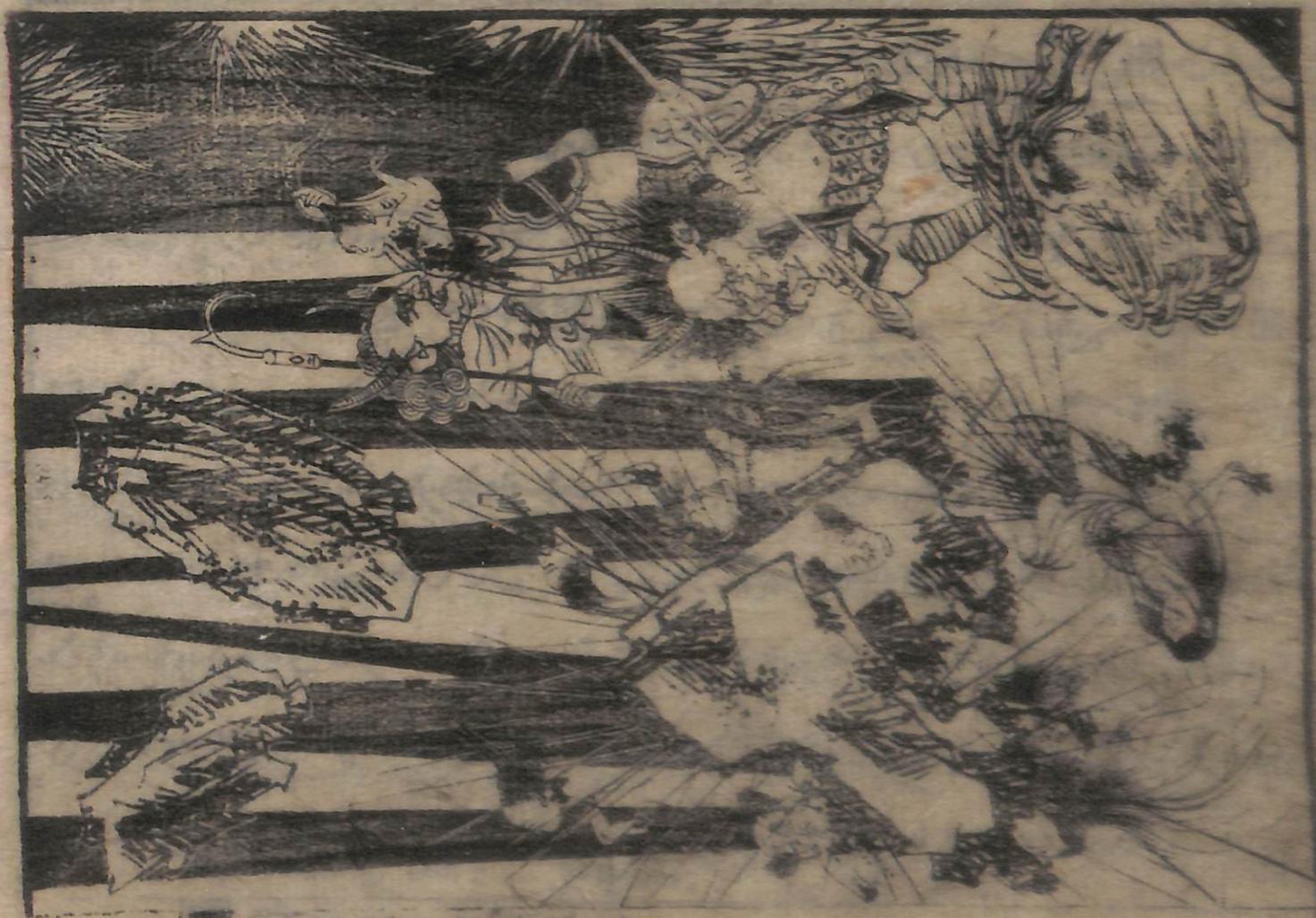
○四つふちのうら地獄と云ふは黒殺地獄の下ふらう堅埃お同
 け地獄と云ふものお繋ぐらと其ふらもものいひゆる半はうら

Main body of handwritten text on the top page, consisting of approximately 10 lines of dense script.

Main body of handwritten text on the bottom page, consisting of approximately 10 lines of dense script.

地獄集卷之十一

衆合地獄





叫喚地獄

御地獄

あつて是とらひたりとめく生ふる又火の工く小火の中お切りひ
かゝるごとく是を百子集とへく若とらるるの止れば卯の刻をいれ
の文のこゝへ又獄年罪人と呵責して偈とじて同件のおふた
かひと起し世も世の作法とけりお税の縁と焼工と火の工くぬ
ハ酒のやれり

守六 大叫喚地獄と車

○おふたからうる地獄と云い叫喚地獄の中ふる堅横おふ同
昔のたまおふたのへん候あのかの地獄あふふとりくの十六
別々の一切の徳の長と十倍きくうる人もの八百集と化乐天の一日
一夜とて今八子集と化乐天の令と云い地獄の日夜とて今八子集

わりの救生偷盜邪媒飲酒多淫の若い地獄小畜獄年罪人と呵責して
偈とじていらく宴給いけの天あひだく大海も焼なりづるや具を
俗の人とや半枯るる事未なきと焼多し。又十六の別あり身半
の一とて又海若となく快疾の行ひを罪人の名と名と云いうふ
はしぬきて焼くひがゆりるる。又一とて又若し迦若とわづらひ
快疾の神とめて手若と名き知れば快疾のいなりりるるけのい
これとて二兩服といふ事。又若と名くじ。又刀とてを若と名
ひまじ。又刀といふと快疾もなきべらるる。又刀とてを若と名
の若と名を若と名。又若のひらるる。い外若と名。又若と名



大おほ叫ひやう喚わん地ち獄ごく

從生要集卷之六



佳火熱地獄



佳火熱地獄

ゆいんそがまや、焼つとも、海傍の圃となすく、かゝる
人ハ、狂と焼や、城とまはるる、こゝに、大細の、
理あつた、依り、焼ら、秋と、改め、夫の、
やく、まふ、なひと、なせ、終ふ、ま、たの、み、
か、つて、ま、こ、ら、び、る、幸、地、の、
の、飛、林、と、お、ま、を、不、追、の、
才、八、大、鳥、撰、地、獄、と、半、

○ハ、ハ、大、鳥、撰、地、獄、と、云、ハ、其、撰、地、獄、の、
の、相、又、同、じ、大、う、ゆ、た、
地、獄、と、の、一、切、の、法、の、昔、と、
ハ、其、命、半、中、劫、也、殺、生、偷、盜、邪、淫、
と、な、ら、る、と、し、
か、り、大、地、獄、の、
子、空、持、佛、
み、思、る、
大、き、お、し、
わ、こ、
地、獄、
飛、人、
地、獄、

ハ、其、命、半、中、劫、也、殺、生、偷、盜、邪、淫、
と、な、ら、る、と、し、
か、り、大、地、獄、の、
子、空、持、佛、
み、思、る、
大、き、お、し、
わ、こ、
地、獄、
飛、人、
地、獄、

大焦炎地獄



往生要集卷之十



草へは津津安奇の優候安美とたり。なり安美地獄と云ふは又その
の別所と云ふ事一切若狭と云ふ事なす。木の刀とぬき捨て身のはと
のこび面あり。まきとて火をそ成のあむしと云ふきざりてまはら
とはる。秘焚地のうふあきまきと火とりのきと焼成りたり。火
鉄とて死なるるうふ事。位多衆大音候と云ふこと。火を火の成と
みらばそなりし女房と酒と云ふたふし。まかどく中あり女房
座とくとねおひ成いたくそなり。老び地獄と云ふは。妙子の朝
西へ徑中ふたふまご中くおと。西は多夜果お
のこりてと云ふ

中九 阿鼻地獄と云

○九のふらび地獄と云ふ別と事。地獄也。大焦熱地獄の下ふたり
獄處の名その危なり。地人の阿鼻地獄なり。火の炎なり。火の中
有の位とて。佛おひなり。僧とて。経を口く。切らた。火をさす。虚をす
善く。絶望なく。口角八方大怖もをあらざる。危あり。一切の怖は。悪
人。こみみりて。我より。ほえ。あむ。狐のとも。ふ。作ひ。う。あ。て。な。も。は
筆を。悪雨の中ふる。大火の。の。あ。む。し。あ。む。火。の。川。と。我。ま。こ
肝。目。の。ひ。う。と。卒。と。又。其。時。獄。卒。大。き。い。は。り。き。ま。せ。い。ひ
ま。の。炎。の。指。切。成。へ。指。切。う。大。火。は。身。と。あ。ひ。ま。る。あ。め。る。人。を。す
て。ふ。悪。と。ほ。く。と。今。又。何。と。そ。う。あ。は。是。天。の。使。徒。健。達。摩。者
あ。む。ら。ひ。と。は。が。は。け。し。業。の。洞。ふ。か。ま。た。り。地。人。の。あ。り。ま。る。身。を。け
べ。地。人。又。と。け。と。ま。く。男。や。女。を。あ。む。中。有。の。は。み。つ。う。と。も。は

子のいふはらの写りたるごとくなり。大まかき雪の共六つ、山の頂と
 城のうらむをほかる。八百位のおきて。八百位千のころぐり火のあは
 ちる。あちのふりじやくむ。はちのちと。火の火つりく。えんま。
 八百位千の中むと。きりし。つらたう。又八百位千の昔の半は。長
 のは。地。樹。ふ。集。り。た。ま。 相傳三味線の
累抄のころ 漆。加。論。の。中。の。巻。ふ。ま。ら。か
 へ。束。身。多。百。端。結。ぬ。の。三。塊。の。大。役。地。ふ。た。け。ら。え。ん。が。り。火。の。り。じ。が。
 ほ。の。と。あ。び。て。花。ま。さ。う。枝。然。の。有。情。と。う。は。と。う。ら。因。が。大。あ。た。た
 ら。骨。ら。と。て。艶。ふ。と。う。と。き。と。や。く。枯。し。ぬ。お。地。と。ら。風。と。ま。つ。て。火
 と。ほ。活。し。ぬ。く。ふ。と。う。と。く。た。は。れ。を。ふ。り。を。ふ。ら。束。身。多。百。端。結。ぬ。の
 こ。あ。げ。南。方。西。方。社。方。も。又。う。の。ど。く。也。と。な。げ。は。方。う。ら。を。と。

法の有情にも大花とらし。交を美をのやび。を成ふら。は方上
 下みみりて。が。い。も。あ。の。と。あ。う。ら。う。昔。痛。と。う。も。も。入。り。て。く
 も。る。あ。い。ま。う。か。ふ。形。人。へ。半。が。き。う。ぬ。ま。は。た。ひ。お。さ。ま。の。か。た
 して。た。と。昔。お。口。あ。い。ま。と。う。ら。う。さ。け。よ。お。う。と。き。く。産。生。つ。ら。と。と
 ま。う。也。又。う。ら。ま。の。集。と。り。つ。て。三。塊。の。雪。の。炭。と。り。て。火。と。う
 へ。又。火。の。地。ふ。か。き。て。大。火。後。山。ふ。の。り。し。む。お。う。と。う。と。う。ら
 下。う。ら。う。の。か。う。と。う。の。中。う。ら。う。も。古。と。お。う。く。ぬ。ま。い。や。百。の。あ
 く。ぎ。あ。ま。ら。く。半。の。は。と。う。と。う。と。う。あ。い。も。ぬ。く。は。ら。と。う。と。う。と。う
 火。後。の。地。の。う。ら。う。と。の。け。お。の。ぐ。ら。と。う。と。う。と。火。後。の。あ。い。ま。と。う
 と。と。と。う。ひ。ら。う。と。て。三。塊。の。雪。の。炭。の。九。と。う。と。入。ら。は。ら。の。う。ら。と。う。と。う。と。う。

て獲獲ふととり下よりづ。又のまゝのつはしをまはふはくこれ後中
 小娘丸入獲獲腸胃とやれぬまをとり下より流とらるぬ。こ上界人のん
 るまはるんごしやんごん げに異地獄の大菩薩の人の七つの大地獄はよお
 別所の二つの法の若とりく。此二つふちのそをみどらぶのりはれを
 つまう小昔の人はまき四へげ地獄のいふ人又息災地獄とそ地化
 自在天のたのみとごるごくおぞうやんごる。おは天下のまらちや
 欲界六欲天の老地獄の具地とがごらん法の有情とくく今
 ききてほまねごり。又 いえと云ふ。法のぢごの人の地くごるご
 されく又を具たごりごまたごるごごごごごごごごごごごごごごご
 る二つの大山へごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
 一

獄のつらむごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
 命まね命。いふお娘や阿鼻地獄へ千ふをて。此もまたまらるも
 と宣へる。お娘といふお娘ははるるゆらまらるるごごごごごご
 もはごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
 の血とはま死ねんとも。西法ま地獄のいふお娘ごごごごごごご
 候命論 入逆飛とはる因果のなれとららるるお娘ごごごごごごご
 う。大衆の法とごる。は重のまをばう。後能ごごごごごごごご
 老け地獄おらるる也。お娘ごごごごごごごごごごごごごごごごご
 十六の眷属の別あり。其中の一をて後地干命とまらるる
 の身の上お火のゆらまら。十申旬なごり也。法のぢごの中をいふ



阿毘地獄

むすまきう又黒鉄のなとくするあう入ある白濁のどくせむか
 中う背とどくせむかあう入ある胸とあう入ある背の背ある胸とあう入
 ありて喰ひたるかんのあく音とうけとて巨更お止時ねく是はむじ
 堂塔伽藍お火をたて仏像とやと傍房と焼僧の住みとあき
 若うの地獄おあう又別あう又炭おとを多分なる仇うく事絶
 かく其身とあきとて巨更お入ある我肉むとてらひう入あくを洗と
 あへハア入ある又堂へ又壯の馬き地あり彼犯人とまふひつてあ
 けの甲うくこみ激くふかきうくて或は猛火お入て焼こがも或は
 大釜お入て是とあきとて炭背あしむあう入ある事まの氷の
 ぶくむてかりく又た火とてお猛火とあかんのどく程く筆を

の若く更で會堂住僧と種あう。是へ音仏の賊物とありあて食
 とうなるのい中おあう又別あう。ぬ山窟おとなる。一申む
 うの黒鉄の山う入あるとて犯人とあひまきとて事あんのい
 死あつて又生又さけぬ又十一の火あつてあうくわづかあまんとや
 かく又極辛いとてあうらとてあひやく割とて極極のなまうと
 さけらるあへ焼こみう又足指に病とりく具置あう。あうあ
 吾とあう事。何徳兼といふきうは音聲を伴の食とて川てぬ
 ぼくう喰ひてい入あるのこああう又別あう。剛毅たおとあ
 なる。地獄小園婆と云悪もらう。ま身の大きあう半。あのこと
 痛つるまのどくわく又あくとあう。あう。犯人とては入て。あう

鷲尾伝